

# 搔槌小路の「いわき市立平図書館」

平図書館の移転先となった私立平陽女学校は、明治38(1905)年3月、私立女子裁縫学校として平町字田町に設立されました。明治39(1906)年4月、私立平陽裁縫女学校と改称します。その後、生徒数の増加で校舎が手狭となったことなどから、大正13(1924)年3月、私立平陽実科女学校へ改称されたのを機に、平図書館の移転先となる常磐線稲荷山トンネル北東側(搔槌小路20番地)に移転改築しました。昭和3(1928)年4月には、文部大臣の認可を受け私立平陽女学校と改称しますが、昭和20(1945)年7月、県立平女子商業学校(現 県立平商業高等学校)に転用する際に廃校となりました。

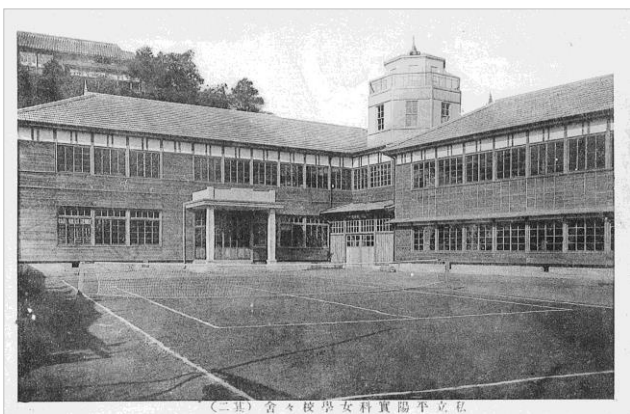
廃校後の校舎は、平女子商業学校が昭和22(1947)年6月まで使用し、その後は、県立平盲ろう学校や、国立平工業高等専門学校(現 福島高専)などが使用していました。また、昭和43(1968)7月に、平公民館、図書館が移転する直前には、火災で校舎が焼失した市立平第二中学校が、仮校舎として使用していました。

図書館は1階で業務を開始し、うち2部屋を書庫に、閲覧室は100㎡あり、移転前の1.5倍となる約60人を収容できるようになりました。

昭和46(1971)年7月には、金曜日と土曜日の開館時間の延長を行い、金曜日は午後4時から午後7時に、土曜日は正午から午後5時に延長し、サービスの拡充を図ります。

同じ頃、公民館利用を促進する動きもあり、平公民館ではサークル活動が急増しました。その結果、施設が手狭になり、市民が思うように利用することができなくなりました。また、当時すでに築50年近く経っていた建物だったため、暖房設備や防火設備の不備なども問題視され、早期の中央公民館建設を求める声が日に日に高まってきました。

そんな折、『いわき民報』(昭和46年7月23日付)のトップ記事で「48年度に着工 こんどは中央公民館 図書館も併設の意向」と報じられます。中央公民館建設が具体的に発表となったのは、これが初めてでした。その後計画が進み、市文化センターが昭和50(1975)年5月2日にオープンしました。建設用地確保の問題や、いわき市合併による財政悪化など、いわきの過渡期にあったことが図書館の移転問題を複雑にし、その結果、平搔槌小路への“暫定移転”から、市文化センター移転まで7年を要したのです。



搔槌小路へ移転した頃の私立平陽女学校。  
図書館は、昭和43年7月から昭和50年3月まで使用していた。(大正13年発行)



私立平陽女学校の跡地は、現在駐車場になっている。(平成26年1月 いわき総合図書館撮影)

『いわき民報』(昭和50年3月19日付)